

令和6年度（2024年度）新規研究課題

課題番号：R6-03

課題名：ワサビ冷蔵苗[※]を利用した新たな作型開発

研究期間：令和6年度～令和8年度（2024年度～2026年度）

研究担当：農林業技術部 農業技術研究室

1 研究の背景

山口県特産の畑ワサビは、加工ワサビの原料や花ワサビとして需要が増加している。一方で、地球温暖化により気温が上昇し、高冷地においても安定した苗の夏越しが困難になっている。

令和5年度に農林総合技術センターが開発した冷蔵苗利用技術は、安定した苗の夏越しが可能で、定植後の生育促進効果もあることを確認した。

2 目的

冷蔵苗の特性を最大限に生かした作型を開発し、畑ワサビ栽培の経営改善および産地拡大を図る。

3 研究内容

冷蔵苗を利用した作型開発および経営指標を作成する。

4 研究のポイント

冷蔵苗の旺盛な生育を利用した、寒冷地の二度切り栽培や、温暖地のトンネル栽培など、新たな作型を開発する。

※早春にワサビセル苗を慣行法で育成し、初夏に冷蔵庫に入庫し、低温・弱光条件下で保存する。秋期に出庫して定植すると、休眠が覚醒しているため旺盛な生育に転じる。

特許出願（令和5年9月25日）

畑ワサビ冷蔵苗を利用した新たな作型開発

研究期間：R6-R8（2024-2026）

研究担当：農林業技術部 農業技術研究室

【研究内容】

畑ワサビ冷蔵苗を利用した新たな作型を開発する。



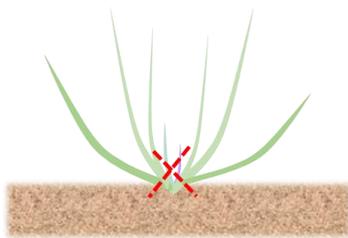
冷蔵苗（2023.9.25 特許出願）



冷蔵苗は定植後の生育が極めて旺盛

1 二度切り栽培（寒冷地）

冷蔵苗は生育が旺盛なので、慣行より早期に地上部（切り茎）が収穫可能となり、その後再生栽培によって根茎（セクズ）を収穫できる。寒冷地におけるハウス促成栽培に適した作型を開発する。



1回目収穫（生長点残す）



1-2 か月後



2回目収穫（堀上げ）

2 トンネル栽培（温暖地）

温暖地における定植時期と収穫時期を確認し、慣行（超促成栽培）並みの収量を目指す。また、ハウス栽培と比較した経営指標を作成する。



トンネル栽培



収穫（堀上げ）